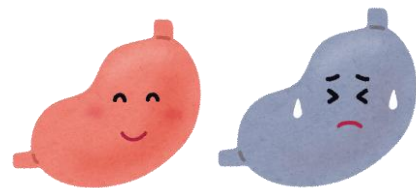


『胃がん検診』を知っていますか？

皆さんは、がん検診を受けておられますか。

国民の2人に1人が、がんを発病し国民の3人に1人が、
がんで亡くなると言われています。



見方を変えれば、がんになったとしても3人に1人は、がんでは亡くなりません。

全てのがん患者の平均5年生存率は概ね60%に上り、早期の胃がんでは98%が助かると言われています。

津山市では平成28年度に3,813人が胃がん検診を受診され、その内の7人が胃がんと診断されました。津山市における胃がん検診の対象者数は30,839人とされているので、未受診者の中には約50人の胃がん罹患者が隠れているものと推測されます。この人たちが、人間ドックや保険診療で検査を受けていれば良いのですが、…とても案じられます。早期にがんを発見し、がんで命を失わないためにがん検診をお受け下さい。

さて、平成29年度から津山市の胃がん検診が、大きく変わりました。平成28年度までの胃がん検診では、バリウムを飲んでもらいX線で胃の形や内面を映し出すX線検診が主に行われてきましたが、新たに内視鏡（胃カメラ）を使った検診を取り入れることになりました。



津山市ではこれまでも内視鏡による検診が行われていましたが、対象者は特別の理由でX線検診ができない方に限られていました。平成29年度からは、50歳以上であれば誰でも内視鏡による検診を受けることが可能になっています。

但し内視鏡による検診は、隔年でしか受けられないのでお気を付けください。

一方でX線検診は、これまでと同じく毎年受診することも可能です。表-1を参考にさせていただくと判りやすいと思います。

表-1

受け方の可否	1年目	2年目	3年目	4年目
可能な受け方	X線検診	X線検診	X線検診	X線検診
	内視鏡検診	—	内視鏡検診	—
	内視鏡検診	—	X線検診	内視鏡検診
	X線検診	内視鏡検診	—	X線検診
不可能な受け方	内視鏡検診	X線検診	内視鏡検診	X線検診
	X線検診	内視鏡検診	X線検診	内視鏡検診



40歳から49歳の皆さんは、これまで通りバリウムによるX線検診が原則ですが、X線検診を特別な理由で受けられない方については内視鏡検診も可能です。

しかし、この場合は50歳以上と同じく隔年でしか受けることはできません。

ご自分が、どのような検診を受けられるかについては、検診医療機関もしくは津山市健康増進課にお尋ね下さい。

内視鏡検診で悪性を疑う所見があれば、組織を採取して病理検査（組織を顕微鏡を使って診断する）を行います。また、内視鏡検診でヘリコバクター ピロリの感染が疑われる所見を認め、受診者が希望すればヘリコバクター ピロリの検査を受けることができます。但し、病理検査とヘリコバクター ピロリの検査に要する費用は、保険診療となるので検診の自己負担額に加え、保険診療の自己負担が発生します。

内視鏡検診は、隔年でしか受診できないと述べてきました。そうは言っても胃がんなどの悪性疾患に罹患するリスクの高い方が、存在します。そういったリスクを持った方は保険診療を使う事などで毎年、内視鏡検査を受けることをお勧めします。例えば、ヘリコバクター ピロリに感染している方は、除菌に成功したとしても、胃がんの発生リスクが無くなってしまいうわけではなく、1/3程度に低下するだけです。

また、タバコを吸いお酒を飲む方は、食道がんになりやすいと言われています。がんの発生リスクと内視鏡検査については、かかりつけ医や検診医療機関で相談して下さい。



薄元医院 薄元亮二

お問い合わせ先：津山市健康増進課

TEL 0868-32-2069